

アンケートによる湯の湖の釣魚実態調査(2003 年度)

独立行政法人水産総合研究センター
養殖研究所日光支所繁殖研究室
北村 章二

1. 目的

内水面冷水域における遊漁資源管理技術の開発に資する知見を得るため、湯の湖において釣魚者へのアンケート調査を行い、釣魚の実態を把握した。

2. 調査場所

調査対象の湯の湖は三ツ岳の火山活動により形成された堰止め湖であり、日光国立公園内に位置している。湖面積は 353,343m²、最大水深 14.5m であり、流入河川は白根沢、大ドブ、小ドブの 3 本、流出河川は湯川である。サケ科魚類の放流は、大正 5 年(1916)のヒメマスの放流が記録として残されているもので最も古いものである。現在、主に釣魚の対象になっているものはヒメマス、ホンマス、カワマス、ニジマスである。このうち、ヒメマス、ホンマスは稚魚放流、ニジマスは成魚放流、カワマスは稚魚と成魚放流によるものであるが、カワマスは天然繁殖魚の割合も高い。

3. 調査方法

2003 年 5 月 23 日にヒメマス及びホンマスの稚魚を約 2 万尾ずつ、6 月 20 日にカワマスの稚魚を約 3 万尾放流した。また、ニジマス及びカワマスの成魚は、原則として毎週土曜日と日曜日の 2 回、放流(期間中計 ニジマス: 4,858kg、25,827 尾、カワマス: 933kg、8,742 尾)した。

調査は 2003 年 5 月 1 日から 9 月 30 日の期間行った。釣魚者(釣り券購入者)全員に図 1 に示したアンケート用紙を配布して記入を依頼し、釣り券売り場及び釣り場に設置した 2ヶ所の回収箱にて回収した。釣獲場所(舟釣り、岸釣り)、釣魚方法(餌釣り、ルアー釣り、フライ釣り)、釣獲魚種、釣獲尾数等のデータを解析に供した。

4. 調査結果

アンケート回答者は舟釣りか釣魚者 4,919 名中 406 名、岸釣りか釣魚者 3,068 名中 345 名であり、回答率はそれぞれ 8.25%及び 11.25%であった。回答者の釣り方別の割合は、舟釣りでは餌釣りが最も多く 51.7%、次いでルアー釣りが 23.4%、フライ釣りが 10.8%であった。岸釣りではルアー釣りが最も多く 41.4%、次いで餌釣りが 29.3%、フライ釣りが 21.7%であった。

図 2 に月毎の回答者数を示した。舟釣りの回答者数は解禁月の 5 月に 154 名と最も多か

ったが、その後は減少し、9月には37名となった。岸釣りは解禁月の5月に184名と最も多かったが、その後減少して7月には28名と最も少なかった。

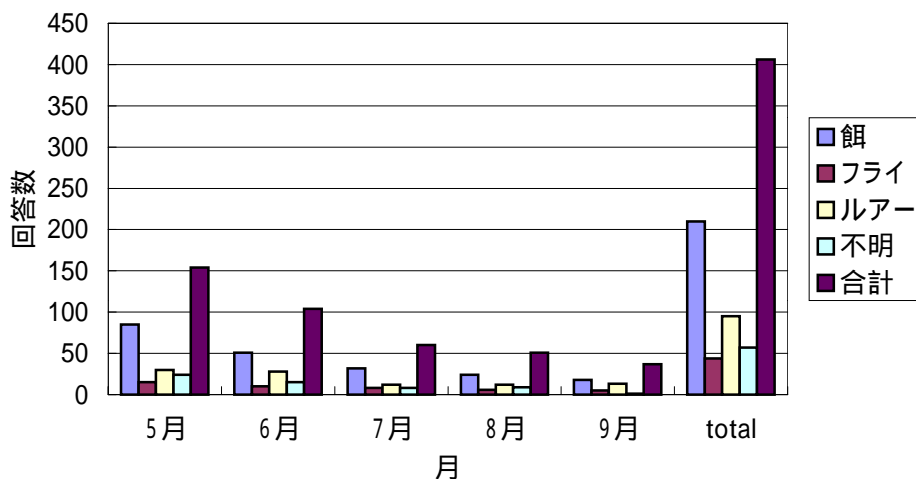


図 2 - 1 舟釣り月毎の回答数

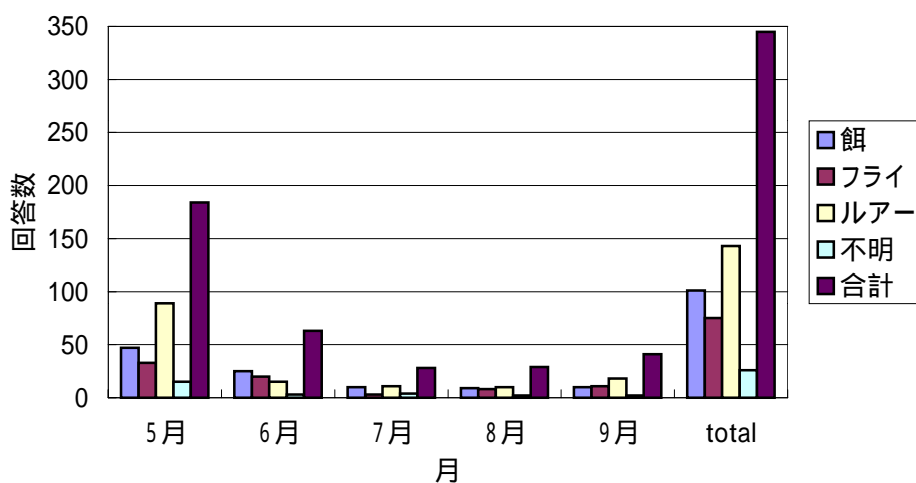


図 2 - 2 岸釣り月毎の回答者数

図 3 に舟釣りでの釣り方別に月毎の1時間当たりの釣獲率を示した。期間中を通した釣獲率は、餌釣り、フライ釣り、ルアー釣りの順に高かった。餌釣りではニジマスが0.57、ヒメマスが0.46、カワマスが0.16、ホンマスが0.07であった。フライ釣りでは、ニジマスが0.52、ヒメマスが0.06、カワマスが0.05、ホンマスが0.11であった。ルアー釣りでは、ニジマスが0.34、ヒメマスが0.02、カワマスが0.08、ホンマスが0.01であった。

餌釣りでは主にニジマスとヒメマスが釣獲されていた。ヒメマスは5月以降徐々に釣獲率が減少し、8月に最低になった。フライ釣りでは主にニジマスが釣獲されていたが、6

月に限ってはホンマスが 0.50 とよく釣獲されていた。ルアー釣りも主にニジマスが釣獲されていたが、全体に釣獲率は少なかった。

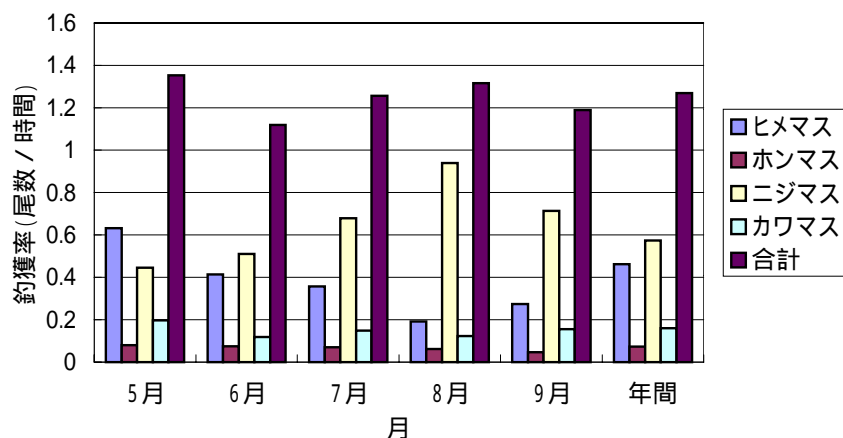


図3 - 1 舟餌釣り月毎の釣獲率

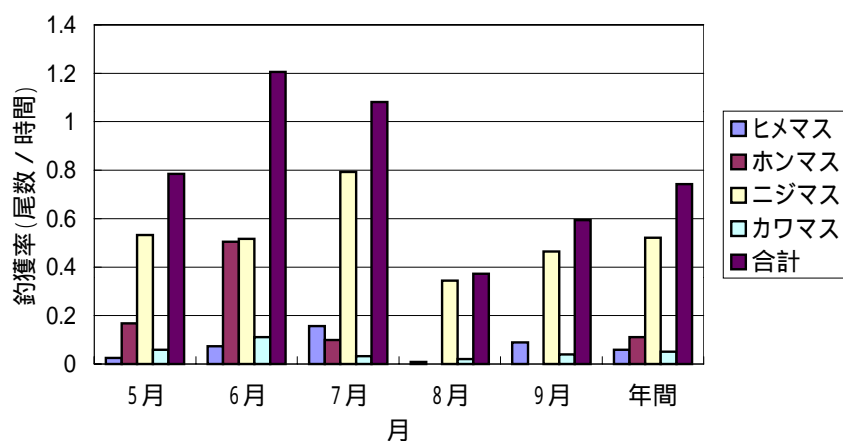


図3 - 2 舟フライ釣り月毎の釣獲率

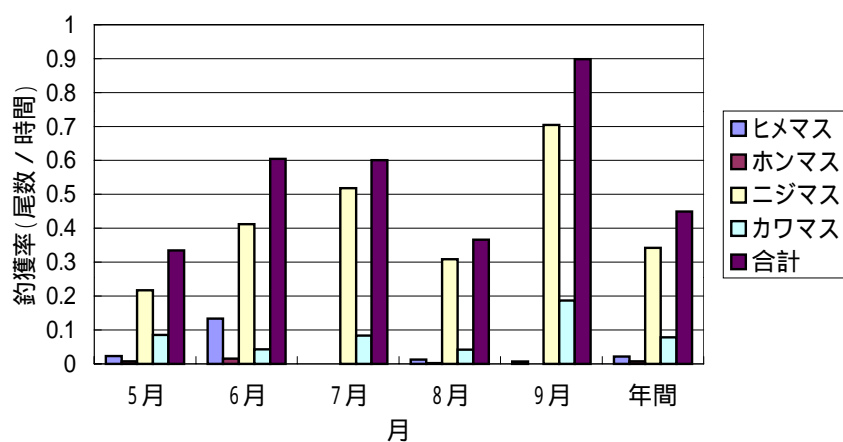


図3 - 3 舟ルアー釣り月毎の釣獲率

図4に岸釣りでの釣り方別に月毎の釣獲率を示した。期間中の4魚種合計の釣獲率は、フライ釣り、餌釣り、ルアー釣りの順に高かった。餌釣りではニジマスが0.58、ヒメマスが0.17、カワマスが0.40、ホンマスが0.10であった。フライ釣りでは、ニジマスが0.49、ヒメマスが0.11、カワマスが0.82、ホンマスが0.07であった。ルアー釣りでは、ニジマスが0.54、ヒメマスが0.05、カワマスが0.37、ホンマスが0.02であった。

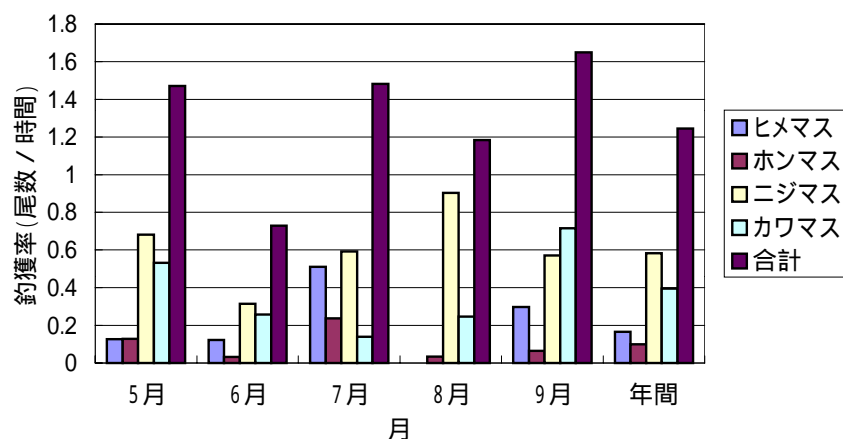


図4 - 1 岸餌釣り月毎の釣獲率

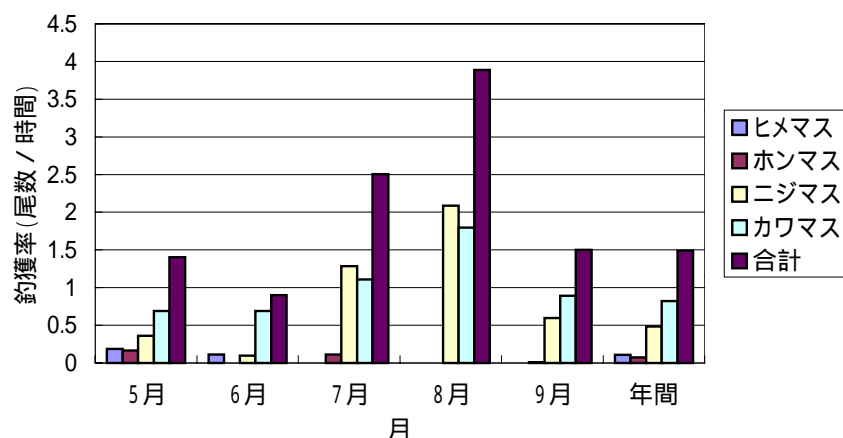


図4 - 2 岸フライ釣り月毎の釣獲率

年間を通した4魚種合計の釣獲率を岸釣りと舟釣りとして比較すると、餌釣りでは同等だったものの、フライ、ルアー釣りでは岸釣りが大きく上回っており、全体では岸釣りの方が釣獲率は高かった。

5. 考察

舟釣り及び岸釣りのアンケート回答率はそれぞれ8.25%及び11.25%であり、年々回答率

は上がっているが、さらに精度の高いデータを得るためには6月以降の回答率の低下を防ぐための方策が必要である。

今年度の特徴として、岸釣りでのカワマスの釣獲が好調だったことにより、年間を通し

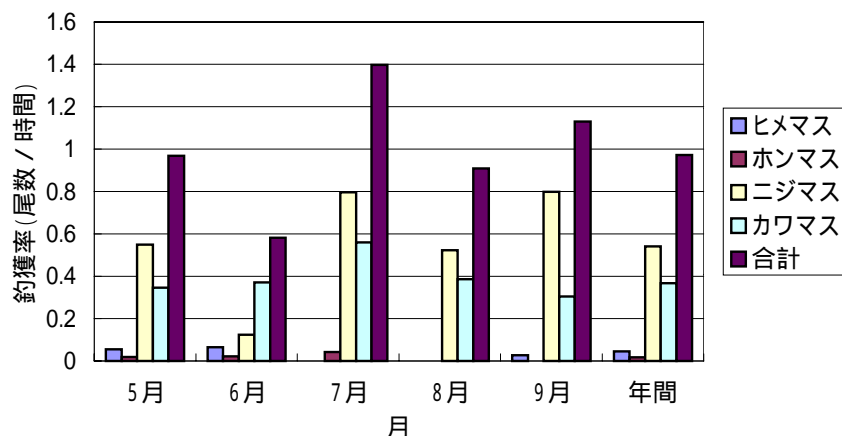


図4 - 3 岸ルアー釣りの月毎の釣獲率

た岸釣り全体の釣獲率が高く、舟釣りを上回った。ニジマス成魚の放流量を減らし、代わりに、舟釣りではあまり釣獲されないカワマス成魚の放流量を増加させたことによるものと思われる。

舟釣りでは、餌釣り以外はヒメマスがほとんど釣獲されていなかった。回答者の50%以上が餌釣りであり、舟釣りでは多くの方がヒメマスを求めているものと考えられる。

かつてヒメマスは、5、6月に数多く釣れた後、それ以降はほとんど釣れなくなっていた。今年度は、舟の餌釣りでは、8月に釣獲率が最低値を示したが、9月には若干上昇した。6 - 7月に湖尻に設置している降下魚防止ネットの効果かも知れない。

シーズンを通してヒメマスの釣果をさらに安定させるためには、特に解禁当初の釣魚者に制限尾数の遵守を徹底させることが必要と思われる。